

高崎市ハザードマップ

災害から身を守るために

災害から身を守るためには、避難するなどあなた自身の対応が必要です。自分は大丈夫と思いきなり、誰かに頼りきりになって、自分の命は自分で守るといふ姿勢を失ってははいけません。

地域の災害を知る

- ハザードマップを使って水害や土砂災害の危険な箇所を確認

命を守るために、今できることを

- 避難先の確認
- 情報入手方法の確認
- 雨漏り補修と家具の固定

災害の危険が迫ったとしても、ひとりではなかなか避難を決断できません。また、地域には自力で避難が難しい方もいます。あなただけでなく、地域のみなどでの避難や助け合いを確認しておきましょう。

地域のみんなを知る

- 普段からの声かけ
- 避難の支援が必要な方の確認
- 避難方法の相談
- 避難のときの声かけ

市では避難を助けるためにいろいろな防災対策を実施しています。

市での防災対策

- 防災スピーカー
- 広報車の巡回
- 安心ほっとメール
- テレビ・ラジオ高崎

災害専用電話

027-321-5000

災害時、避難が必要となったときに自力での避難が困難な方はお電話ください。市の公用車またはバスによる避難支援を行います。

情報の入手方法

安心ほっとメール

たかさき「安心ほっとメール」に登録していただく、皆さんの携帯電話やスマートフォン・パソコンに防災情報や気象情報などをメールでお知らせします。登録は無料です。(データ通信料は登録者負担となります)

携帯電話やスマートフォンから登録

Email takasaki@entry.mail-dpt.jp

上記アドレスに空メールを送る。QRコードを読み取れば、アドレスの入力は必要ありません。

緊急速報メール

緊急情報を緊急速報メールに対応した携帯電話やスマートフォンに配信します。事前登録は不要です。(詳しくは携帯電話会社にお問い合わせください)

テレビで調べる

テレビの④ボタン(NHK・群馬テレビのデータ放送)

データ放送に対応しているテレビでは、リモコンの④ボタンを押すと、防災情報を確認することができます。

インターネットで調べる

高崎市役所ホームページ

URL https://www.city.takasaki.gunma.jp

Facebook 高崎市_防災情報

Twitter @takasaki_bousai

電話がつながりにくいときの連絡方法

災害用伝言ダイヤル 171・災害用伝言版

災害時に電話がつながりにくくなったときに、家族や知人との連絡に利用できます。

災害用伝言ダイヤル171 (NTT)

URL https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice/171/

Web 171 (NTT)

URL https://www.web171.jp/

備蓄品の準備

- 食品(レトルト食品、缶詰、調味料、スープ、味噌汁など) 3日分以上
- 飲料水(1人あたり1日3リットル) 3日分以上
- トイレ用品(簡易トイレ、汚物保管用容器、トイレ袋、トイレトイレットペーパー) 3日分以上
- 感染症対策(マスク、アルコール消毒液・ウェットティッシュ、体温計、ハンドソープ、ビニール手袋)
- ヘルメット、防災ずきん、軍手
- ティッシュペーパー
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 使い捨てカイロ
- 毛布・タオル
- 簡易食器(割りばし、紙皿)
- 予備の電池、充電器(携帯電話)
- ランタン・ろうそく、マッチ・ライター
- ポリエチレンラップ

※乳児・高齢者・障がい者がいるご家庭では、このほかにも必需品などを準備しておきましょう。※非常時に持ち出しできるように、リュックサックなども用意しておきましょう。

一連絡先

高崎市役所 027-321-1111 倉洲支所 027-378-3111 箕郷支所 027-371-5111
群馬支所 027-373-1211 新町支所 0274-42-1234 榛名支所 027-374-5111
吉井支所 027-387-3111

発行：高崎市 企画・編集：高崎市総務部防災安全課
このハザードマップには、国土地理院長の承認を得て、同院発行の地図データ(国土基本情報20万)及び基礎地理情報を使用した。[測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R4H6 507]

洪水から命を守るために

洪水 避難の心得

浸水前の早い段階に安全な場所へ

浸水の中を避難するのはとても危険です。浸水前の避難などの情報が活用できるか確認し、避難のきっかけをつかみましょう。

浸水がはじまったら

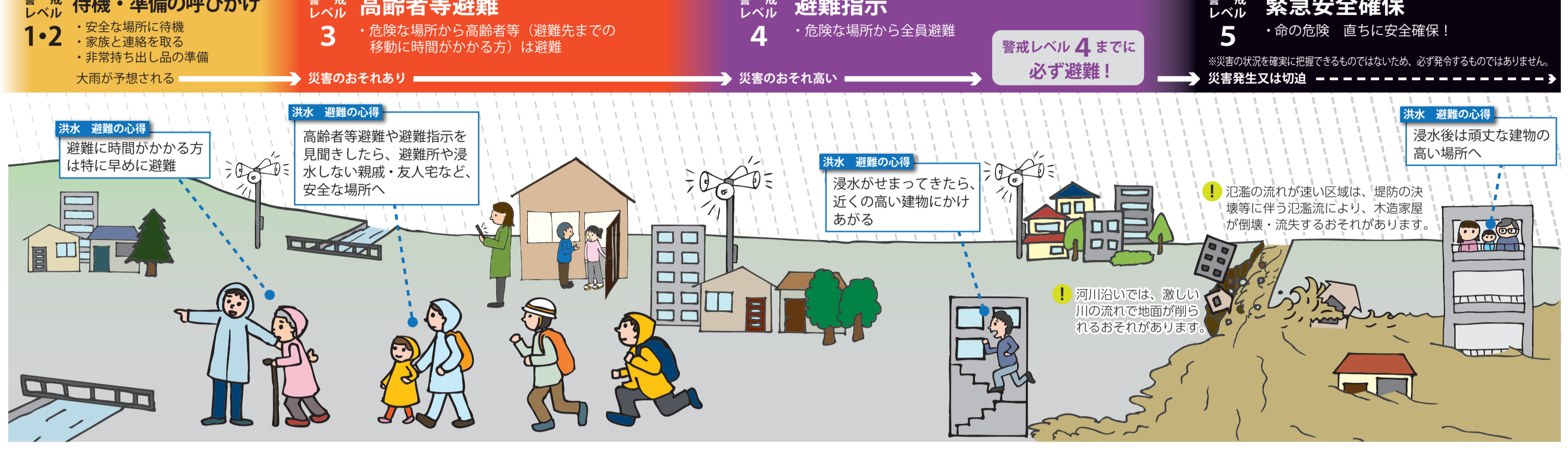
浸水後は無理に避難せずに、近くの高い建物や自宅の高い場所で身を守りましょう。

■洪水から避難するときにはこんなことに気をつけましょう。

高架下のアンダーパスなど、周囲より低く冠水しやすい道路の通行は避けましょう。

水が濁って、足元が見えにくくなります。もしフタが外れていると、マンホールや排水溝などに転落して危険です。

近年、局地的な大雨や集中豪雨が増え、各地で被害をもたらしています。川の急増水により急激に増水し、大雨が降っていない下流で事故が発生することもあります。増水した河川や水路は見に行かないなど、屋外での活動の時には注意してください。



情報を集めて避難のきっかけをつかむ

気象情報に注意!

大雨により災害が発生するおそれがある場合、警報や注意報などの防災気象情報を気象庁が発表します。

非常事態	警戒レベル 5 大雨特別警報、氾濫発生情報など
大雨が降り続く	警戒レベル 4 氾濫危険情報、土砂災害警戒情報など
大雨が降り続く	警戒レベル 3 大雨警報、洪水警報、氾濫警戒情報など
雨が強く続く	警戒レベル 2 洪水注意報、大雨注意報、氾濫注意情報など
	警戒レベル 1 早期注意情報

水位情報に注意!

河川水位情報は、河川の氾濫に対する避難の目安となる情報です。

	烏川	鍋川	碓氷川	神流川	井野川	榛名白川	利根川
氾濫危険水位	4.2m	4.48m	4.1m	4.6m	4.73m	6.2m	3.32m
避難判断水位	3.1m	4.1m	3.7m	4.1m	3.3m	6.0m	2.1m
氾濫注意水位	2.5m	4.0m	3.6m	3.3m	2.6m	1.5m	3.6m
水防団待機水位	2.0m	3.9m	1.6m	1.0m	1.9m	2.2m	1.0m
通常の水位							

観測所名 上里見 烏川 高松 岩鼻 岩崎 山名 板敷 高松 若泉 井野 元島名 西新波 興行裏

※災害の状況を確実に把握できるものではないため、必ず発令するものではありません。災害発生又は切迫

NHK データ放送

リモコンの④ボタンを押す

群馬県水位雨量情報システム

URL https://www.river-gunma.jp

川の防災情報

URL https://www.river.go.jp

かわみるくんま

URL https://suibou-gunma.jp/

土砂災害から命を守るために

土砂災害 避難の心得

雨や予兆現象に注意し、早めの避難

土砂災害は、避難情報を発令することが非常に難しい現象です。情報がなくても自主的に避難するきっかけをつかみましょう。

大雨で外に出るのが危険なときは

避難所まで行くのが危険と感じたときは、無理に避難せずに、丈夫な建物の2階以上の斜面から離れた場所で身を守りましょう。

■土砂災害から避難するときにはこんなことに気をつけましょう。

夜中に雨が降り続く予想される場合は、暗くなる前に避難しましょう。

斜面や増水した川から離れた道を避けましょう。

周囲に危険を感じたときは、高くて頑丈な建物に駆け込みましょう。



土砂災害警戒情報に注意!

土砂災害警戒情報

土砂災害発生危険性が高まったときに、地域の雨量などを考慮して、群馬県と気象庁が共同で発表します。

NHK・群馬テレビデータ放送

リモコンの④ボタンを押す

群馬県土砂災害警戒情報提供システム

URL https://www.dosya-gunma.jp/web_pub/

雨に注意!

雨が降り始めたらカップを外に置き、溜まった水の高さで雨量を確認します。

1時間で2cm→[1時間の雨量 20mm]

車のワイパーを動かしても前が見えにくいほどの強い雨が降り始めたら10cm→[連続雨量 100mm]

弱い雨でも長時間降り続くと、土砂災害の危険性が高まる

予兆現象に注意!

がけ崩れの危険が迫っているかもしれませんが、がけから小石がばらばら落ちてくる

地すべりの危険が迫っているかもしれませんが、沢や井戸の水が濁る

土石流の危険が迫っているかもしれませんが、急に川の流れるが濁り、流木が混ざっている

雨が降り続けているのに川の水位が下がる

土砂災害警戒区域とは?

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危険が生じるおそれがあると認められる区域です。

土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

土砂災害が発生した場合に、建築物に損傷が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域です。特定の開発行為に対する許可制や建築物の構造規制等が行われます。

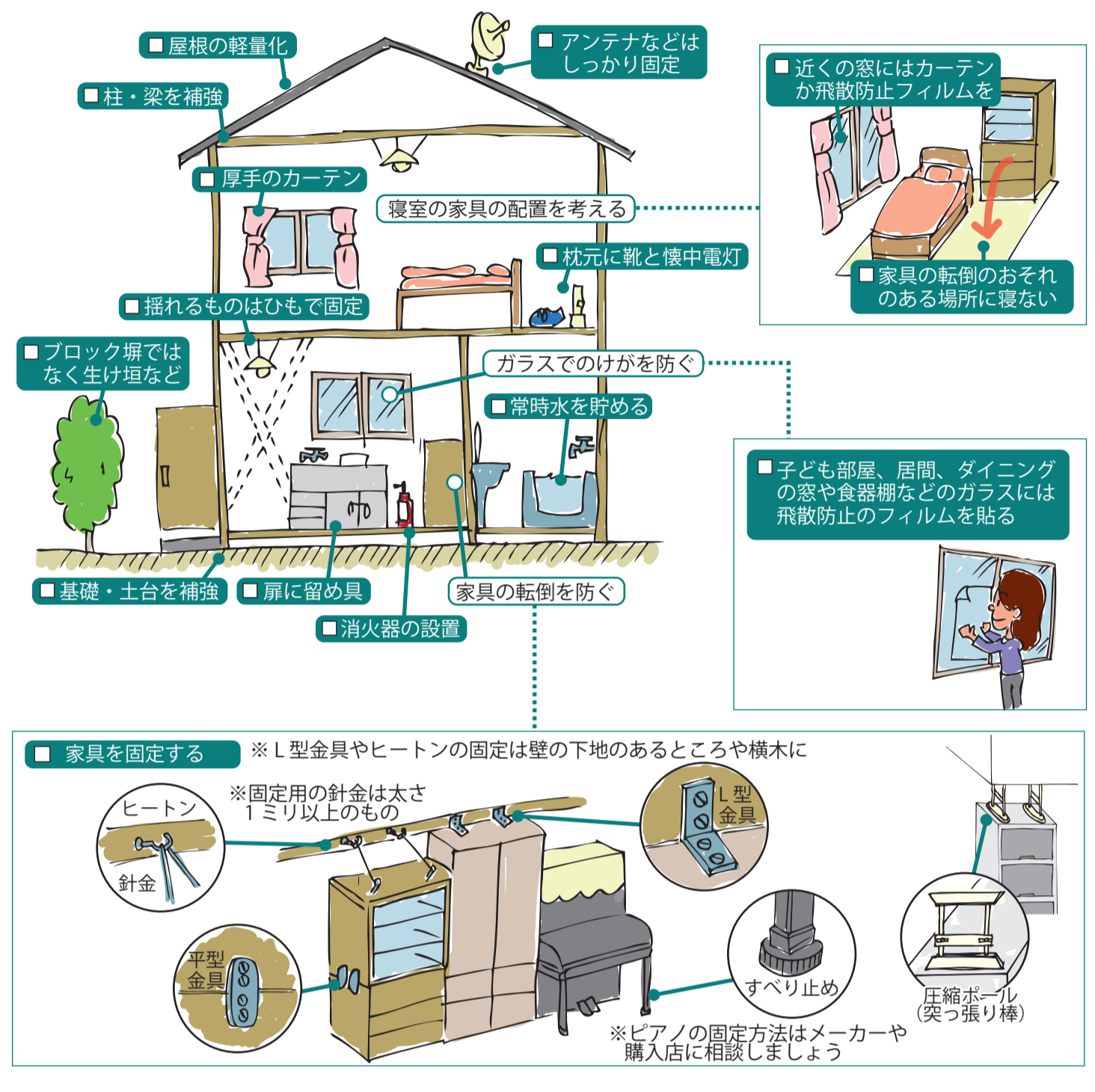
地震から命を守るために

地震 心得

事前の耐震化や家具の固定が第一

1995年の阪神・淡路大震災では犠牲者の8割以上が建物の倒壊によるものでした。地震の被害は一瞬です。起こる前の備えが第一です。特に昭和56年以前に建てられた木造住宅(旧耐震基準)の場合には、必要に応じて補強しましょう。

自宅の地震対策をチェックしましょう



地震 心得

揺れを感じたら、身の安全を確保

屋内にいる場合と屋外にいる場合、がけ崩れの心配がある場合など、その場に応じて、身の安全を確保しましょう。

グラツときたら!

身の安全を確保 → 火の始末をする → 危険な場所には近づかない

揺れを感じたり、緊急地震速報を見聞きしたら、テーブルの下や落下物の危険がない場所で身を守り、頭を保護しましょう。

揺れがおさまったら、火の元の確認をしましょう。

がけ崩れの危険があるので、山やがけには近づかないようにしましょう。また、倒れた電柱や切れた電線には近づかないようにしましょう。

地震後、自宅で生活できそうときは...

避難所へ行く必要はありません。備蓄品を準備しておきましょう。

ライフラインが停止する場合もあります。復旧するまでの数日間のために、備蓄品があると安心です。

例えは

- 避難所 (市では、震度5弱以上で避難所を開設します。)
- 友人や親戚の家 など

群馬県は地震が少ない?

